

図書館サポートフォーラム賞 吉村敬子氏 推薦の言葉

吉村さんの受賞をお祝いして、一言お祝いの言葉を述べさせていただきます。

吉村さんには、今を去ること半世紀以上、52年前の1958年（昭和33年）6月初めてお会いしました。季節は初夏だったと記憶しております。シラキュース大学大学院スクール・オブ・ライブラリー・サイエンス校長のヤナウイン先生に、「今日は日本から女子学生が来るから、飛行場に迎えに行くので一緒に来てくれませんか」とおっしゃられてお供し、シラキュースの飛行場でお会いしたのが初めてでした。キャンパスへ向かう途中先生が、「敬子、泊まる場所は何处ですか」とお尋ねになると、「まだ、どこも決めていません」という返事が返ってきました。先生も私も吃驚しました。私はその前年来ておりまして、大学が大学院女子学生の為に用意したいわゆる1戸3LDKの3階建のマンションにありました。私はトゥインベッドルームにありまして、相棒は夏休みで留守でベッドは空いていたので、では、とりあえず私の部屋へということ、それから一週間くらい泊まっていたと思います。その間、部屋を探して移られました。1ドル360円の時代で、日本からは公式には学生は30ドルしか、持ち出せない時ですから、吉村さんも私も同じ奨学金を貰っておりましたが、大変苦勞なさったと思います。

吉村さんは、津田女子大を卒業され、東洋文庫に就職なされてから、シラキュースへこられました。米国の大学には、全米組織の優等学生友愛会がありますが、図書館情報学分野にも、そのような組織がありまして、吉村さんはそのメンバーだったと思います。つまり成績優秀で修士号を取得され、その後、直ちにハーバードのイェンチェン図書館に就職され、その後米国議会図書館へ移られました。当初は目録部門で、その後レファレンス部門アジア部日本課に勤務されました。同部署で、一般のレファレンス業務の他に、同課に保存されていたWDCコレクションを整理し目録作成に当たられました。なお、吉村さんはハーバードの図書館におられた時に、東アジア地域研究コースを履修され修士号をとっておいでになります。このクラスから習得した知識が、コレクションの整理には役立ったと言っておられます。

占領期の検閲資料のプランゲ文庫はよく知られていますが、WDCコレクションは、それより遙かに膨大なコレクションで、終戦以前の内務省、外務省、満鉄の資料、南洋庁の資料、諜報関係資料など、広範囲にわたる資料が含まれており、昭和史研究には必要不可欠なコレクションで、そのような貴重なコレクション検索の手がかりになる目録を、吉村さんお一人で作成されたのです。吉村さんは大変小柄な方で、体調を崩されて退職されてからも、このコレクションの重要性を認識され、こつこつと一人で現物に当たって日英二カ国語の解題つき目録を作成されました。

東洋文庫でライブラリアンとしてのキャリアを始められてから半世紀、このような昭和史解明に必要不可欠なコレクションへの目録を集大成なされたことは、国内外の調査研究への計り知れない貢献であり、まさに文献への手がかり作成を職務の一つとするライブラリアンの鏡とも言える偉業です。

選考委員の一人として皆様の賛同を得て、一人でも多くの方にこの目録の存在を知っていただき、一人でも多くの国内外の研究者が利用してくださることを願っております。ご出席の皆様ともども、吉村さんの受賞を心からお祝い申し上げます。

平成 22 年 4 月 13 日

古賀 節子